

オオルリの人工構造物への営巣 2 例

小林繁樹¹・川本美千夫²・弘中 毅³

はじめに

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* はアムール地方、ウスリー地方、中国東北地区、朝鮮半島、中国北部、日本で繁殖し、インドシナ半島、フィリピン、ボルネオ島などで越冬する(高野 1981)。わが国では九州、四国、本州、北海道の低山帯から亜高山帯下部にかけての森林でもおに繁殖し、島嶼では対馬、伊豆諸島で繁殖記録がある(日本鳥学会 1974)。山口県でも溪流ぞいの広葉樹林の多い山地に普通に生息し、繁殖する(日本野鳥の会山口県支部 1990)。営巣は崖、岩崖、土手、樹洞など、ときには家屋の軒端や壁も利用して行なう(清棲 1966, 1978)。しかしながら、人工構造物への営巣に関して基礎データを示した報告はわずかで、福島県民の森地内のキャンプ場の建造物に営巣した例(沼沢ほか 1988)と、須走村で浅間神社および発電所の軒の上に営巣した例(清棲 1978)があるにすぎない。

今回、筆者らは山口県と島根県において、オオルリの人工構造物への営巣を 2 例確認することができたので報告する。本報を作成するにあたり、渡辺和彦氏には周東町のオオルリの観察記録をご教示いただいた。紙面をかりて厚くお礼申しあげる。

営巣場所の環境および観察状況

1. 山口県玖珂郡周東町祖生 長宝寺

周囲の環境：長宝寺は、山口県瀬戸内側東部の内陸の農山村に位置する高照寺山の中腹にある。海拔は約300mで、眼下に島田川中流ぞいの水田地帯が広がる。寺院の裏山は社寺林としてよく保存されており、大きなヤマモモや樹洞のあるカシ、シイなどの常緑広葉樹十数本と、樹齢30~50年程度のスギとヒノキ林が混交し、被度が高く薄暗い。

観察状況：発見したのは1993年6月3日で、オオルリの巣は同社寺林に3mの距離に迫って建立されている観音堂の軒下の梁上につくられていた(図1)。この日は親鳥の姿を確認できなかったが、翌4日におとずれたときには、雌が抱卵していた。その後調査をした6月7日には、巢内にふ化後まもない赤裸のヒナ3羽と白っぽい卵が1個みられ、雌が食物を運んでくるのも観察した。6月16日には頭部にわずかに幼綿羽が残り、暗茶褐色の体色のヒナ3羽がさかんに食物をせがんでおり、巣立ち間近かと思われた。6月19日には巣は空であった。付近を注意して観察したが、巣立ちヒナや親鳥の姿はみられず、巣立ったかどうかは確認できなかった。巣の中にはふ化しなかった白色で無斑の卵が1個残されていた。卵の長径は20.6mm、短径は14.2mmであった。巣の計測などは7月22日に行なった(表1)。巣は碗型で、外装にコケ類が多量にもちいられ、ごく少量の樹根、樹木の小枝、タケやマツ

1993年11月25日受理

1. 〒745 山口県徳山市栗屋坂田 948-24
2. 〒746 山口県新南陽市日地町 2-18. B-34
3. 〒741 山口県岩国市錦見 6 丁目12-1



図1. 観音堂の梁上のオオルリの巣。

Fig. 1. Nest of Blue-and-white Flycatcher *Cyanoptila cyanomelana* on a ledge of the temple.

の落葉が混じっていた。産座には細い樹根、獣毛などが敷かれていた。

2. 島根県鹿足郡六日市町深谷公園

周囲の環境：営巣地は山口県と島根県の県境をなす深谷川の深いV字谷にかかり、ブッポウソウ *Eurystomus orientalis* が鉄骨の橋脚の穴を利用して営巣することでよく知られている深谷大橋（二村・森口 1979）のたもとの深谷公園である。巣は現在使用禁止になっているトイレの電力使用量の計測用メータ上につくられていた（図2）。標高は約400mで、トイレのある場所には裏山の落葉広葉樹やモミ、ヒノキなどがせまっている。

観察状況：この巣を発見したのは1993年7月2日で、その時、巣内にはすでに3羽のヒナがおり、親鳥がヒナに食物を運んでいた。その後調査した7月6日にも育雛中で、ヒナは巣立ち直前に育っていた。7月10日には巣内にヒナはみあたらず、新鮮な糞が1個残っているのみであった。7月13日に巣の位置、大きさなどの計測をした（表1）。構造や巣材などは長宝寺のものと同様であった。この巣も椀型で、コケ類が多量にもちいられ、少量の樹根、ヒノキの小枝が混じっており、産座には細い樹根、獣毛などが敷かれていた。

考察

筆者らの観察記録と沼沢ほか（1988）が報告した福島県民の森地内のキャンプ場の建造物に営巣した例を考えあわせると、オオルリが営巣した人工建造物の周辺環境と巣の位置にはいくつかの共通点がある。まず、どちらの営巣位置も上部を樹木が覆ったり、家屋のひさしがせりだして被度が高く、薄暗い場所である。そして、巣は垂直な壁面に付属した棚状になっている突起物の上につくられている。また、巣の前面はある程度ひらけており、周囲がよくみわたせる。方位に関しては明確な傾向は認められなかった。こうした環境は、オオルリの通常の繁殖環境である渓谷ぞいの崖、土手などと、人工建造物である以外、基本的には似ている。また、巣の構造や巣材なども崖や土手につく



図2. 電力積算計の上の巣とオオルリの親鳥 (♂).

Fig. 2. Blue-and-white Flycatcher *Cyanoptila cyanomelana* on electric power meter.

表1. 各巣の計測結果.

Table 1. The material and size of nests.

No.	場所	繁殖の有無	巣材	重量(g) 採取時	地上高 (cm)	外径(cm) 長径×短径	内径(cm) 長径×短径	深さ (cm)	高さ (cm)
1	周東町	有	コケ類	93	320	30.0×12.0	7.5×6.0	5.0	10.0
2	六日市町	有	コケ類	45	207	19.0×12.0	7.0×6.5	5.0	8.5

られたもの(清棲 1978)と同じである。沼沢ほか(1988)は福島県民の森での人工構造物への営巣例は、オオルリの営巣に適した崖地などが付近にない例外的な場合かもしれないと述べているが、筆者らが営巣を記録した2か所は営巣可能な自然環境は周囲に十分にあった。したがって、営巣環境さえ整えば、オオルリは人工構造物を営巣場所としてかなり積極的に利用したといえる。また、川本(1992)が人工の穴を崖につくり、繁殖に成功はしなかったものの、営巣したことを報じている。このことは人工の営巣環境をつくってやれば、それをオオルリが利用する可能性が高いことを示唆している。人工構造物を利用させるには、報告例や筆者らの観察から巣台を設置するのがよいと思われる。筆者らは、オオルリが繁殖を終えた長宝寺と、深谷公園のトイレにそれぞれ2か所づつ巣台を設置し(図3, 4)、今後の利用状況を試している。



図3. 観音堂に架設した巣台.

Fig. 3. Nest board on a ledge of the temple.

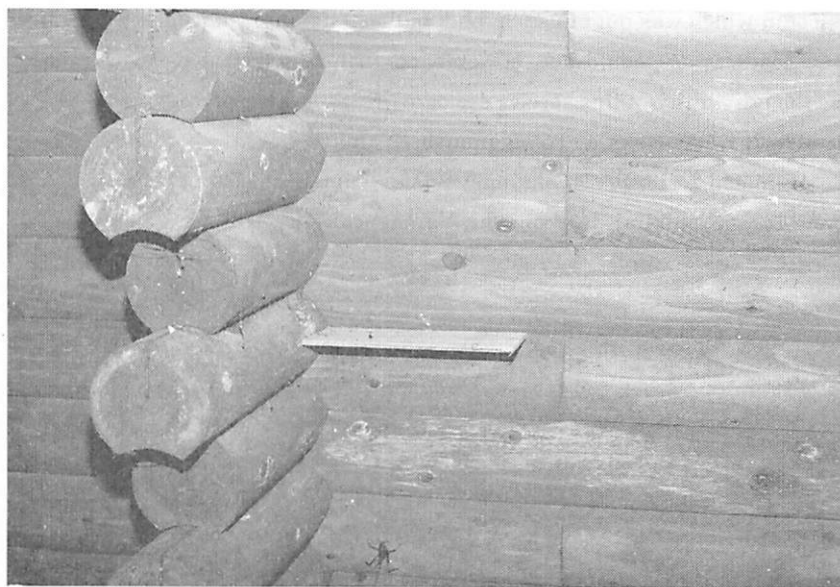


図4. 深谷公園に架設した巣台.

Fig. 4. Nest board on the restroom wall.

引用文献

- 川本美千夫. 1992. オオルリの人工穴での造巢について. *Strix* 11 : 333 - 335.
- 清棲幸保. 1966. 野鳥の事典. 東京堂出版, 東京.
- 清棲幸保. 1978. 日本鳥類図鑑 増補改訂版. 講談社, 東京.
- 日本野鳥の会山口県支部. 1990. 山口県版鳥類繁殖地図調査報告書. 日本野鳥の会山口県支部, 山口.
- 日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録. 学習研究社, 東京.
- 二村一男・森口道夫. 1979. 人工建造物に営巣する野鳥 (1). *野鳥* 44 (3) : 45.
- 沼沢篤・薄井英司・溝口俊夫. 1988. オオルリの建造物への営巣例. *Strix* 7 : 285 - 287.
- 高野伸二. 1981. カラー写真による日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京.

Two Nesting records of the Blue-and-white Flycatcher on artificial structures

Shigeki Kobayashi¹, Michio Kawamoto² and Tsuyoshi Hironaka³

There are very few records of Blue-and-white Flycatchers *Cyanoptila cyanomelana*, nesting on buildings. We found two nests of Blue-and-white Flycatchers on artificial structures, one each in Yamaguchi Prefecture in May 1993 and Shimane Prefecture in July 1993. One was on the ledge of a temple wall and the other was on the electric power meter of a restroom which was out of use. In both of the nests, three nestlings were raised until they grew feathers. We could not, however, confirm that they fledged. Our observation suggests the possibility of this species use of artificial nesting place.

1. 948 - 24 Kuriyasakata, Tokuyama-shi, Yamaguchi 745
2. Hijimachi 2 - 18, B - 34, Shinnanyou-shi, Yamaguchi 746
3. 6 - 12 - 1 Nishikimi, Iwakuni-shi, Yamaguchi 741